

県内企業景況調査結果

[2017 年 7～9 月期実績、2017 年 10～12 月期見通し]

沖縄振興開発金融公庫 企画調査部発表

— 県内景況は、拡大している —

調査結果のポイント

1. 業況判断 D.I.

実績 (7～9 月期) : 「好転」超幅が拡大し、18 期連続プラス

[前期 11.9%ポイント (以下、単位省略) ⇒当期 19.2]

- ・好調な観光需要を背景に、飲食店・宿泊業はさらに拡大、関連業種でもプラス維持
- ・公共・民間ともに高い建設需要を受けて、建設業、資材関連で高水準を維持
- ・堅調な個人消費を背景に、卸売業、小売業で二桁プラス

見通し (10～12 月期) : 来期は「好転」超幅がほぼ横這いとなる見通し (来期 18.3)

- ・人手不足の影響等は続くも、観光・建設関連を牽引役に高水準を維持する見込み

2. 景況天気

実績 : 18 期連続「☀️ (晴れ)」(前期 21.8⇒当期 26.4)

小売業、運輸業で「☀️ (晴れ)」→「☀️ (快晴)」

卸売業、飲食店・宿泊業で引き続き「☀️ (快晴)」

情報通信業で「☁️ (曇り)」→「☀️ (晴れ)」

製造業、建設業、サービス業で引き続き「☀️ (晴れ)」

見通し : 「☀️ (晴れ)」となる見通し (来期 23.2)

卸売業、運輸業で引き続き「☀️ (快晴)」

小売業、飲食店・宿泊業で「☀️ (快晴)」→「☀️ (晴れ)」

製造業、情報通信業、サービス業で引き続き「☀️ (晴れ)」

建設業で「☀️ (晴れ)」→「☁️ (薄曇り)」

3. 売上 D.I.

実績 : 「増加」超幅が大幅に拡大 (同 11.0⇒同 21.5)

見通し : 「増加」超幅がやや縮小する見通し (同 16.5)

4. 採算水準 D.I.

実績 : 「黒字」超幅がやや拡大 (同 40.4⇒同 42.8)

見通し : 「黒字」超幅がやや拡大する見通し (同 46.9)

5. 資金繰り D.I.

実績 : 「楽」超幅がほぼ横這い (同 13.9⇒同 14.7)

見通し : 「楽」超幅が縮小する見通し (同 6.2)

沖縄振興開発金融公庫 企画調査部

[調査内容についてのお問い合わせ先]

企画調査部 調査課 (担当: 安里)

沖縄県那覇市おもろまち 1-2-26

電話 : 098-941-1725 FAX : 098-941-1920

I. 調査要領

1. 調査目的

本調査は、県内における企業の景況を把握し、企業経営のための情報を提供することを目的とする。

2. 調査対象

沖縄県内に本社のある法人企業のうち、原則として資本金1千万円以上かつ従業員数20名以上の企業を対象とする。

3. 調査対象企業数及び回答状況

業種	項目	調査対象企業数	回答数	回答率 (%)
		(A)	(B)	(B)/(A)×100
	全業種	365	339	92.9
	製造業	65	63	96.9
	建設業	69	65	94.2
	卸売業	43	41	95.3
	小売業	49	46	93.9
	運輸業	35	32	91.4
	情報通信業	21	18	85.7
	サービス業	52	46	88.5
	飲食店・宿泊業	27	24	88.9

4. 調査方法

対象企業に調査票を郵送し、自計記入を求める方法による。

5. 調査対象期間

当期 … 2017年7～9月期実績 来期 … 2017年10～12月期見通し

6. 調査実施期間

2017年8月下旬～2017年10月上旬

(発送：2017年8月31日、回収基準日：2017年9月15日)

7. 用語説明等

- (1) 本調査は、原則として前年同期との比較による調査であるが、採算水準、在庫水準、雇用判断については当該期に関する質問となっている。
- (2) D. I. (Diffusion Index、景気動向指数の一つ) とは、質問に対しプラス、中立、マイナスの3つの選択肢を用意し、このうちプラスと答えた企業の割合から、マイナスと答えた企業の割合を差し引いたものである。このD. I. は、基本的には変化の方向を表すことができる。
- (3) 景況天気については、売上、採算水準、資金繰りD. I. を平均し、その値を5段階に区分して判定している。

II. 調査結果

1. 業況判断

— 当期は「好転」超幅が拡大し、18期連続「好転」超、
来期は「好転」超幅がほぼ横這いとなる見通し —

(1) [2017年7～9月期実績]

自社の業況を総合的に判断する業況判断D. I. は、19.2%ポイント（以下、単位省略）と「好転」超幅が拡大、18期連続の「好転」超となった。

業種別にみると、運輸業では「好転」超幅が縮小し、建設業で「好転」超幅が横這い、製造業で「好転」超幅がほぼ横這いとなるものの、卸売業、小売業、飲食店・宿泊業で「好転」超幅が大幅に拡大し、サービス業で「好転」超幅がやや拡大、情報通信業で「悪化」超幅が大幅に縮小した。

(2) [2017年10～12月期見通し]

来期の業況判断D. I. は18.3と、「好転」超幅はほぼ横這いの見通しとなっている。

業種別にみると、建設業、卸売業、飲食店・宿泊業で「好転」超幅が大幅に縮小したものの、製造業で「好転」超幅が大幅に拡大し、小売業、サービス業で「好転」超幅がやや拡大、情報通信業で「悪化」超から「保合い」となり、運輸業で「好転」超幅が横這いとなった。

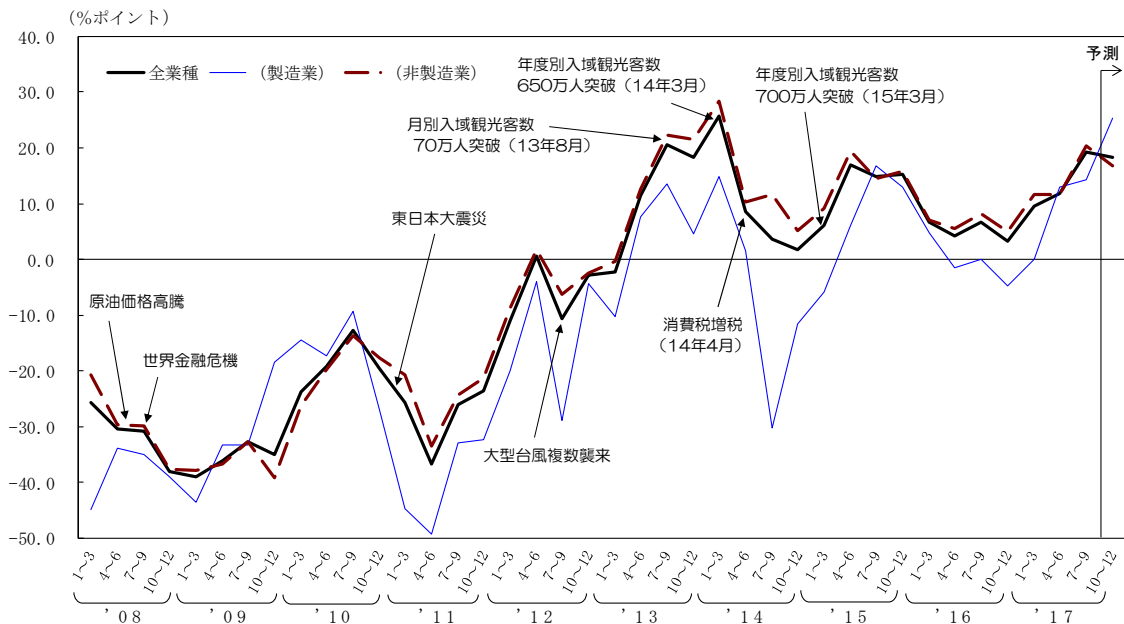
図表1-1. 業況判断D.I.

参考：業況判断D. I.（前年同期比、「好転」-「悪化」企業割合）

（単位：%ポイント）

業種	区分	2016年			2017年				
		4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	7～9月期			
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
企業種 D. I. (①—②)		4.3	6.7	3.2	9.5	11.9	(13.9)	19.2	18.3
	① 好転(%)	23.5	27.1	25.9	28.0	29.1	(26.7)	31.3	27.4
	不変(%)	57.3	52.5	51.4	53.6	53.7	(60.5)	56.6	63.4
	② 悪化(%)	19.2	20.4	22.7	18.4	17.2	(12.8)	12.1	9.1
製造業		△ 1.5	0.0	△ 4.7	0.0	12.9	(22.6)	14.3	25.4
建設業		4.5	7.7	16.9	25.4	16.9	(4.6)	16.9	6.2
卸売業		2.4	0.0	2.4	2.5	15.0	(17.5)	36.6	24.4
小売業		10.9	14.6	4.3	23.4	6.3	(8.3)	21.7	23.9
運輸業		△ 20.6	0.0	△ 11.8	8.8	33.3	(27.3)	28.1	28.1
情報通信業		0.0	△ 26.3	△ 25.0	△ 20.0	△ 33.3	(△11.1)	△ 11.1	0.0
サービス業		10.2	△ 6.0	0.0	△ 2.0	2.1	(12.5)	4.3	8.7
飲食店・宿泊業		32.0	70.4	39.1	33.3	36.8	(36.8)	50.0	29.2

図表1-2. 業況判断D. I. の推移



2. 景況天気

— 当期は18期連続「晴れ」、来期も「晴れ」の見通し —

(1) [2017年7～9月期実績]

当期の県内企業の動向を全業種ベースでみると、資金繰りD. I. (13.9→14.7)で「楽」超幅がほぼ横這いとなるものの、売上D. I. (11.0→21.5)で「増加」超幅が大幅に拡大、採算水準D. I. (40.4→42.8)で「黒字」超幅がやや拡大したことから、景況天気(21.8→26.4)は18期連続「晴れ」となった。

業種別にみると、小売業、運輸業で「晴れ」から「快晴」、情報通信業で「曇り」から「晴れ」となり、製造業、建設業、サービス業で引き続き「晴れ」、卸売業、飲食店・宿泊業で引き続き「快晴」となった。

(2) [2017年10～12月期見通し]

来期の見通しは、資金繰りD. I. (6.2)で「楽」超幅が縮小、売上D. I. (16.5)で「増加」超幅がやや縮小するものの、採算水準D. I. (46.9)で「黒字」超幅がやや拡大し、景況天気(23.2)は引き続き「晴れ」の見通しとなっている。

業種別にみると、建設業で「晴れ」から「薄曇り」、小売業、飲食店・宿泊業で「快晴」から「晴れ」となるものの、製造業、情報通信業、サービス業で引き続き「晴れ」、卸売業、運輸業で引き続き「快晴」の見通しとなっている。

図表2-1. 景況天気図

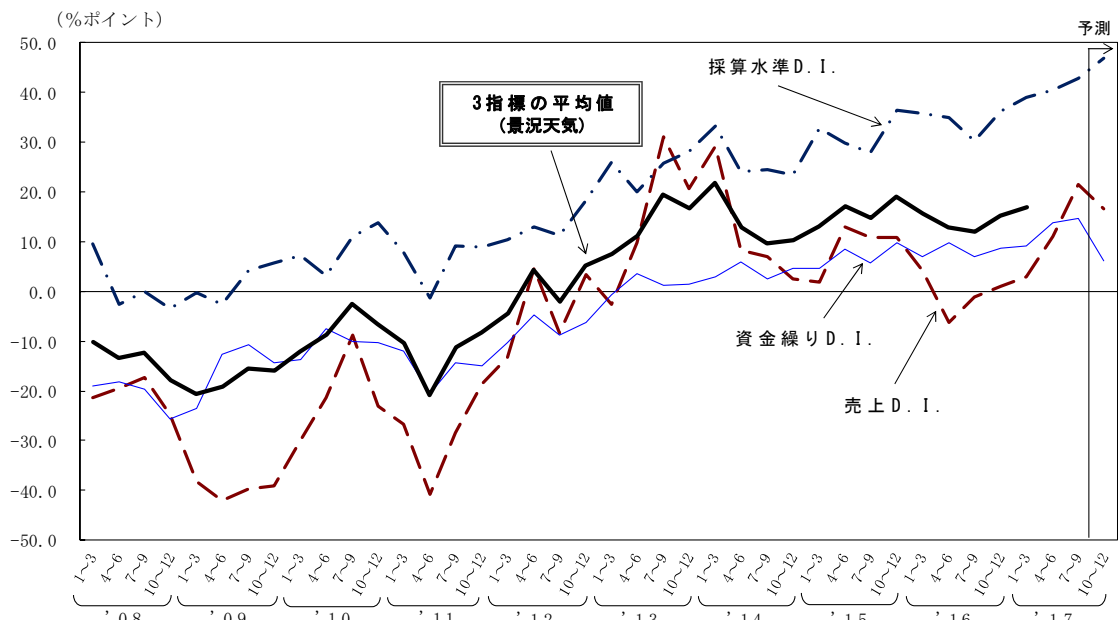
参考: 景況天気 (売上、採算水準、資金繰りD. I. の平均値)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2016年			2017年				
		4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	7～9月期			
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全業種 (好転-悪化)		☀ 12.8	☀ 12.1	☀ 15.3	☀ 17.0	☀ 21.8	☀ (19.0)	☀ 26.4	☀ 23.2
製造業		☁ 8.7	☁ 2.6	☁ 7.3	☁ △0.5	☀ 18.8	☀ (22.6)	☀ 24.9	☀ 27.5
建設業		☁ 7.6	☁ 6.2	☀ 16.4	☀ 19.9	☀ 21.5	☁ (7.7)	☀ 11.3	☁ 5.1
卸売業		☀ 17.5	☀ 17.1	☀ 27.8	☀ 30.0	☀ 33.3	☀ (30.8)	☀ 45.5	☀ 33.3
小売業		☀ 21.7	☀ 25.2	☀ 20.3	☀ 27.0	☀ 19.4	☀ (20.1)	☀ 32.6	☀ 27.5
運輸業		☁ 3.9	☁ 4.9	☁ 2.9	☁ 8.8	☀ 22.2	☀ (16.2)	☀ 30.2	☀ 35.4
情報通信業		☁ 7.4	☁ △15.8	☁ △11.7	☀ 11.7	☁ △7.4	☁ (3.7)	☀ 11.1	☀ 20.4
サービス業		☁ 9.5	☁ 6.7	☀ 18.0	☀ 19.0	☀ 20.1	☀ (15.3)	☀ 15.9	☀ 18.1
飲食店・宿泊業		☀ 34.7	☀ 60.5	☀ 42.0	☀ 29.2	☀ 42.1	☀ (42.1)	☀ 51.4	☀ 27.8

☀ 快晴 — 30以上～100以下 ☁ 曇り — △ 30以上～△ 5未満
 ☀ 晴 — 10以上～30未満 ☁ 薄曇り — △ 5以上～10未満
 ☁ 曇り — △ 30以上～△ 5未満 ☁ 曇り — △ 100以上～△ 30未満

図表2-2. 売上,採算水準,資金繰りD. I. 値の推移 (全業種)



3. 売上

— 当期は「増加」超幅が大幅に拡大、来期は「増加」超幅がやや縮小する見通し —

(1) [2017年7~9月期実績]

当期の売上D. I. は21.5と、「増加」超幅が大幅に拡大した。

業種別にみると、建設業で「増加」超幅が大幅に縮小、サービス業で「増加」超幅が縮小し、飲食店・宿泊業で「増加」超幅がほぼ横這いとなるものの、製造業で「減少」超から「増加」超に転じ、卸売業、小売業、運輸業で「増加」超幅が大幅に拡大、情報通信業で「減少」超幅が大幅に縮小した。

(2) [2017年10~12月期見通し]

来期の売上D. I. は16.5と、「増加」超幅はやや縮小する見通しとなっている。

業種別にみると、情報通信業で「減少」超から「保合い」となり、製造業、運輸業、サービス業で「増加」超幅が横這いとなるものの、建設業で「増加」超から「減少」超へ転じ、卸売業、飲食店・宿泊業で「増加」超幅が大幅に縮小、小売業で「増加」超幅がやや縮小する見通しとなっている。

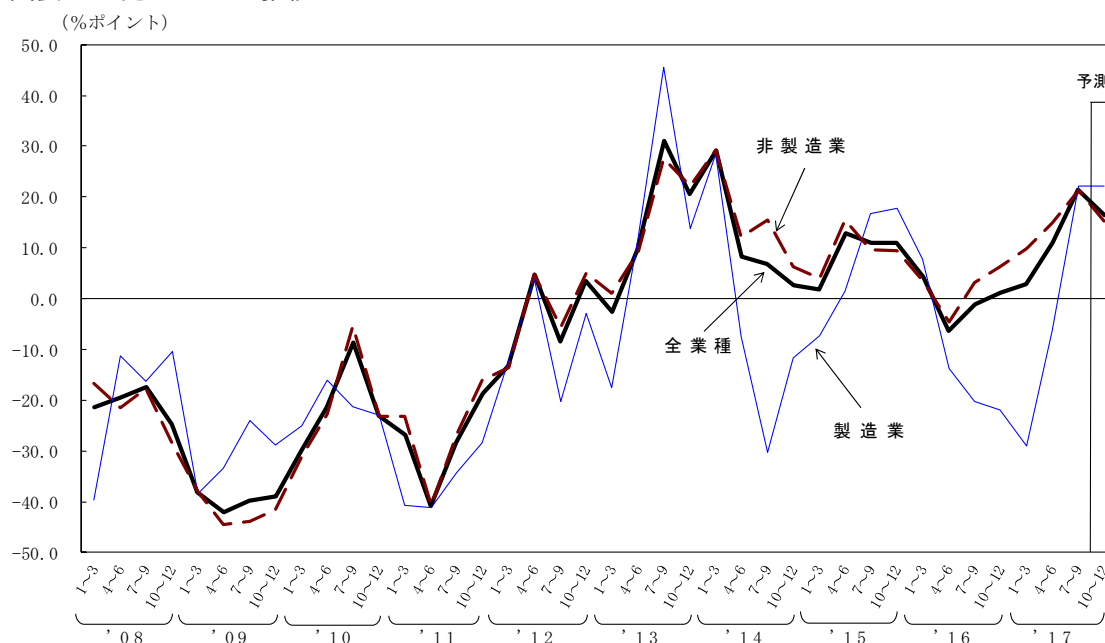
図表3-1. 売上D.I.

参考: 売上D. I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2016年			2017年				
		4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期 実績	7~9月期		10~12月期	
		実績	実績	実績		前回実績	今回実績		今回見通し
全業種 D. I. (①-②)		△ 6.3	△ 1.2	1.1	2.9	11.0	(11.3)	21.5	16.5
	① 増加(%)	29.5	33.5	34.2	33.4	37.1	(30.9)	40.4	33.9
	不変(%)	34.7	31.8	32.8	36.0	36.8	(49.6)	40.7	48.7
	② 減少(%)	35.8	34.7	33.0	30.5	26.1	(19.6)	18.9	17.4
製造業		△ 13.8	△ 20.3	△ 21.9	△ 29.0	△ 6.5	(12.9)	22.2	22.2
建設業		△ 21.2	△ 4.6	13.8	3.0	13.8	(△1.5)	1.5	△ 9.2
卸売業		11.9	10.3	23.8	15.0	32.5	(35.0)	51.2	31.7
小売業		13.0	4.9	△ 2.2	27.7	8.3	(6.3)	23.9	19.6
運輸業		△ 35.3	△ 14.7	△ 26.5	△ 17.6	15.2	(21.2)	34.4	34.4
情報通信業		△ 11.1	△ 36.8	△ 30.0	△ 5.0	△ 55.6	(△27.8)	△ 22.2	0.0
サービス業		△ 6.1	6.0	14.0	14.3	22.9	(10.4)	17.4	17.4
飲食店・宿泊業		36.0	66.7	47.8	37.5	42.1	(31.6)	41.7	25.0

図表3-2. 売上D. I. の推移



4. 採算水準

— 当期・来期ともに「黒字」超幅がやや拡大 —

(1) [2017年7～9月期実績]

当期の採算水準D. I. は42.8と、「黒字」超幅がやや拡大した。

業種別にみると、建設業、サービス業で「黒字」超幅が大幅に縮小し、製造業、運輸業で「黒字」超幅がほぼ横這いとなるものの、卸売業、小売業、情報通信業、飲食店・宿泊業で「黒字」超幅が大幅に拡大した。

(2) [2017年10～12月期見通し]

来期の採算水準D. I. は46.9と、「黒字」超幅がやや拡大する見通しとなっている。

業種別にみると、飲食店・宿泊業で「黒字」超幅が大幅に縮小、卸売業で「黒字」超幅が縮小するものの、運輸業、情報通信業で「黒字」超幅が大幅に拡大し、製造業、建設業、サービス業で「黒字」超幅が拡大、小売業で「黒字」超幅がやや拡大する見通しとなっている。

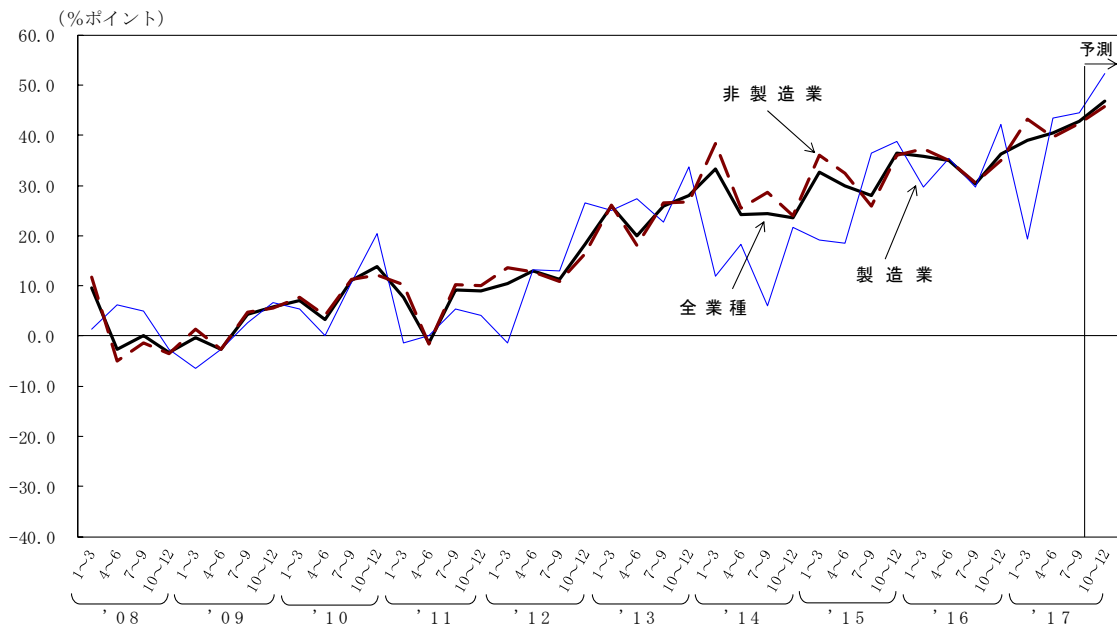
図表4-1. 採算水準D.I.

参考:採算水準D.I. (当該期、「黒字」-「赤字」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2016年			2017年				
		4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	7～9月期		10～12月期	
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全業種	D. I. (①-②)	35.0	30.3	36.2	38.9	40.4	(38.3)	42.8	46.9
	① 黒字(%)	49.0	46.6	48.6	51.0	51.0	(49.3)	53.4	52.2
	トントン(%)	37.0	37.0	39.1	36.9	38.3	(39.8)	36.0	42.5
	② 赤字(%)	14.0	16.3	12.4	12.1	10.7	(11.0)	10.6	5.3
製造業		35.4	29.7	42.2	19.4	43.5	(48.4)	44.4	52.4
建設業		31.8	20.0	29.2	52.2	40.0	(24.6)	23.1	29.2
卸売業		33.3	35.9	45.2	67.5	45.0	(47.5)	58.5	48.8
小売業		39.1	58.5	47.8	38.3	35.4	(43.8)	58.7	60.9
運輸業		35.3	17.6	26.5	29.4	39.4	(24.2)	37.5	59.4
情報通信業		33.3	△ 10.5	5.0	45.0	33.3	(38.9)	44.4	55.6
サービス業		26.5	16.0	34.0	32.7	35.4	(27.1)	23.9	30.4
飲食店・宿泊業		48.0	70.4	47.8	33.3	47.4	(57.9)	70.8	50.0

図表4-2. 採算水準D. I. の推移



5-1. 資金繰り

— 当期は「楽」超幅がほぼ横這い、来期は「楽」超幅が縮小する見通し —

(1) [2017年7～9月期実績]

当期の資金繰りD.I.は14.7と、「楽」超幅がほぼ横這いとなった。

業種別にみると、製造業で「楽」超幅が大幅に縮小するものの、情報通信業で「保合い」から「楽」超、運輸業で「楽」超幅が拡大、卸売業、サービス業、飲食店・宿泊業で「楽」超幅がやや拡大し、建設業、小売業で「楽」超幅がほぼ横這いとなった。

(2) [2017年10～12月期見通し]

来期の資金繰りD.I.は6.2と、「楽」超幅が縮小する見通しとなっている。

業種別にみると、製造業、サービス業で横這いとなるものの、建設業で「楽」超から「苦しい」超へ転じ、小売業、飲食店・宿泊業で「楽」超幅が大幅に縮小、卸売業、運輸業、情報通信業で「楽」超幅が縮小する見通しとなっている。

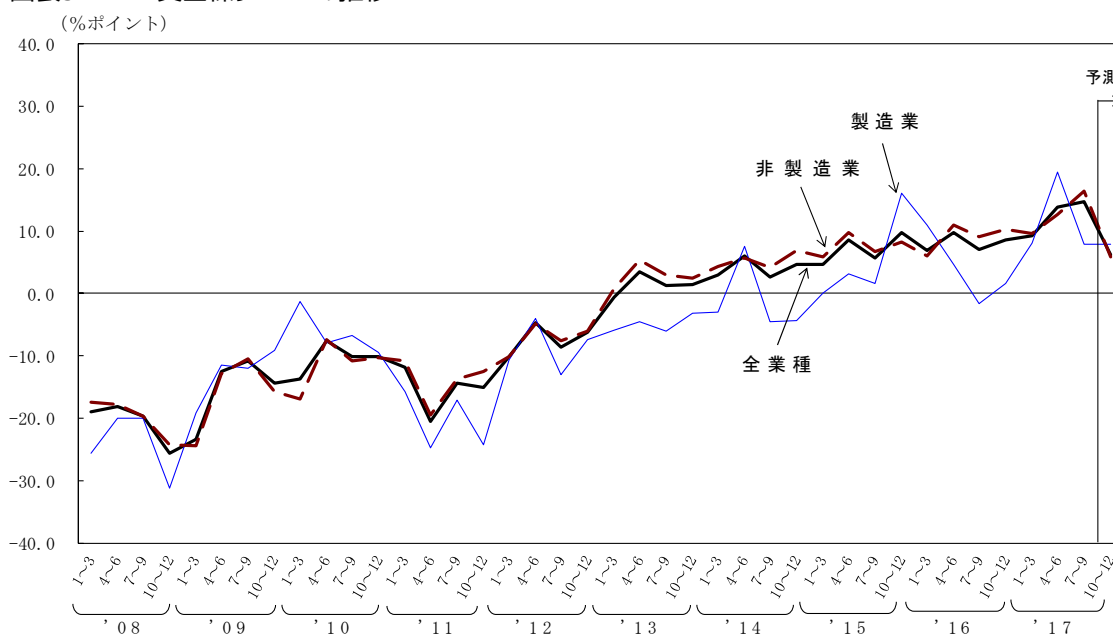
図表5-1-1. 資金繰りD.I.

参考: 資金繰りD.I. (前年同期比、「楽」-「苦しい」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2016年			2017年				
		4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	7～9月期		10～12月期	
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全業種 D.I. (①-②)		9.7	7.0	8.6	9.2	13.9	(7.4)	14.7	6.2
① 楽 (%)		16.9	16.0	16.4	17.9	19.6	(12.8)	18.3	11.5
不変 (%)		75.9	74.9	75.9	73.5	74.8	(81.9)	78.2	83.2
② 苦しい (%)		7.2	9.0	7.8	8.6	5.6	(5.3)	3.5	5.3
製造業		4.6	△ 1.6	1.6	8.1	19.4	(6.5)	7.9	7.9
建設業		12.1	3.1	6.2	4.5	10.8	(0.0)	9.2	△ 4.6
卸売業		7.1	5.1	14.3	7.5	22.5	(10.0)	26.8	19.5
小売業		13.0	12.2	15.2	14.9	14.6	(10.4)	15.2	2.2
運輸業		11.8	11.8	8.8	14.7	12.1	(3.0)	18.8	12.5
情報通信業		0.0	0.0	△ 10.0	△ 5.0	0.0	(0.0)	11.1	5.6
サービス業		8.2	△ 2.0	6.0	10.2	2.1	(8.3)	6.5	6.5
飲食店・宿泊業		20.0	44.4	30.4	16.7	36.8	(36.8)	41.7	8.3

図表5-1-2. 資金繰りD.I.の推移



5-2. 借入難易

— 当期・来期ともに「容易」超幅がほぼ横這い —

(1) [2017年7～9月期実績]

当期の民間金融機関からの借入難易D. I. は10.9と、「容易」超幅がほぼ横這いとなった。業種別にみると、製造業「容易」超幅が縮小、運輸業で「容易」超幅がやや縮小したものの、情報通信業で「保合い」から「容易」超となり、卸売業、小売業、サービス業で「容易」超幅がやや拡大し、建設業、飲食店・宿泊業で「容易」超幅がほぼ横這いとなった。

(2) [2017年10～12月期見通し]

来期の民間金融機関からの借入難易D. I. は10.6と、「容易」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

業種別にみると、情報通信業で「容易」超から「保合い」となり、サービス業、飲食店・宿泊業で「容易」超幅がやや縮小するものの、卸売業、小売業で「容易」超幅がやや拡大し、建設業、運輸業で「容易」超幅が横這い、製造業で「容易」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表5-2-1. 民間金融機関借入難易D.I.

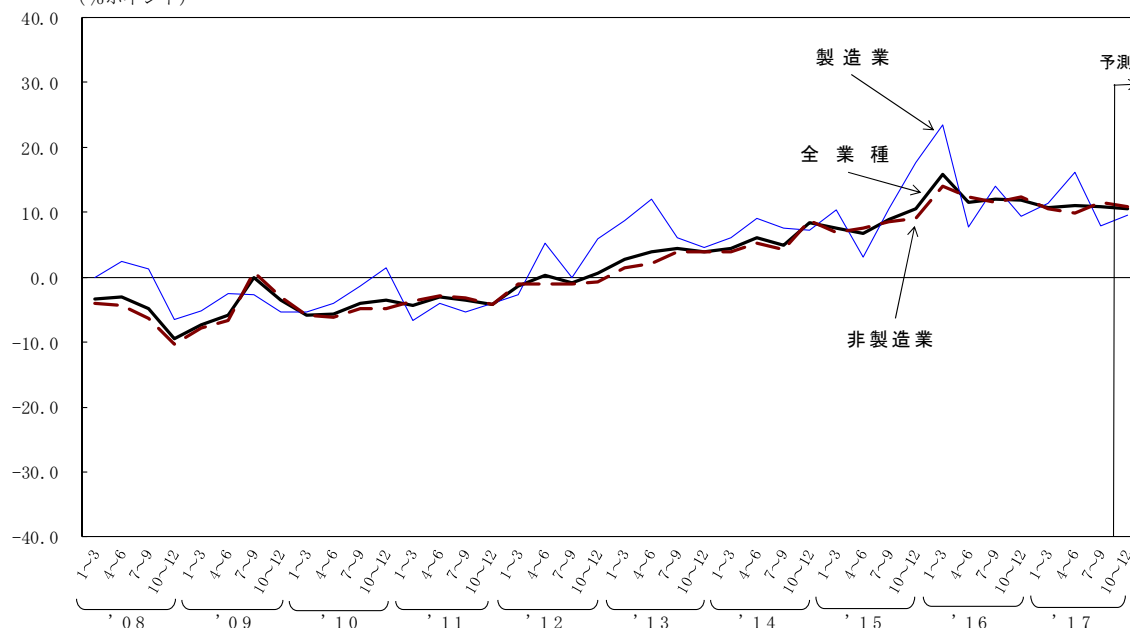
参考:借入難易D. I. (前年同期比、「容易」-「困難」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2016年			2017年				
		4～6月期 実績	7～9月期 実績	10～12月期 実績	1～3月期 実績	4～6月期 前回実績	7～9月期 前回見通し	10～12月期 今回見通し	
全業種	D. I. (①-②)	11.5	12.0	11.8	10.7	11.0	(10.4)	10.9	10.6
	① 容易(%)	14.6	15.7	14.7	12.4	13.4	(13.4)	12.7	12.4
	不変(%)	82.2	80.5	82.5	85.9	84.3	(83.7)	85.5	85.8
	② 困難(%)	3.2	3.8	2.9	1.7	2.4	(3.0)	1.8	1.8
製造業		7.7	14.1	9.4	11.3	16.1	(11.3)	7.9	9.5
建設業		12.1	18.5	15.4	13.4	15.4	(13.8)	13.8	13.8
卸売業		16.7	12.8	16.7	7.5	15.0	(20.0)	17.1	19.5
小売業		17.4	9.8	13.0	12.8	2.1	(4.2)	6.5	8.7
運輸業		11.8	14.7	14.7	8.8	9.1	(9.1)	6.3	6.3
情報通信業		△ 11.1	△ 5.3	△ 5.0	10.0	0.0	(△5.6)	5.6	0.0
サービス業		6.1	0.0	4.0	4.1	4.2	(4.2)	8.7	4.3
飲食店・宿泊業		24.0	22.2	21.7	20.8	26.3	(26.3)	25.0	20.8

図表5-2-2. 借入難易D. I. の推移

(%ポイント)



Ⅲ. 参考

参考 1. 販売数量（製造業・卸売業・小売業のみ）

— 当期は「増加」超幅が大幅に拡大、来期は「増加」超幅が大幅に縮小する見通し —

(1) [2017年7～9月期実績]

当期の販売数量D. I. は 28.0 と、「増加」超幅が大幅に拡大した。

業種別にみると、製造業で「減少」超から「増加」超に転じ、卸売業、小売業で「増加」超幅が大幅に拡大した。

(2) [2017年10～12月期見通し]

来期の販売数量D. I. は 18.0 と、「増加」超幅が大幅に縮小する見通しとなっている。

業種別にみると、製造業で「増加」超幅がほぼ横這いとなるものの、卸売業で「増加」超幅が大幅に縮小、小売業で「増加」超幅がやや縮小する見通しとなっている。

表1. 販売数量D.I.

参考:販売数量D. I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2016年			2017年				
		4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期		10～12月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全業種	D. I. (①—②)	△ 2.6	△ 8.3	△ 3.9	△ 4.0	3.3	(11.3)	28.0	18.0
	① 増加(%)	30.1	29.9	30.3	29.5	31.3	(31.3)	46.7	34.0
	不変(%)	37.3	31.9	35.5	36.9	40.7	(48.7)	34.7	50.0
	② 減少(%)	32.7	38.2	34.2	33.6	28.0	(20.0)	18.7	16.0
	製造業	△ 16.9	△ 26.6	△ 18.8	△ 21.0	△ 4.8	(11.3)	22.2	20.6
	卸売業	9.5	5.1	14.3	0.0	15.0	(22.5)	46.3	14.6
	小売業	6.5	7.3	0.0	14.9	4.2	(2.1)	19.6	17.4

参考 2. 販売価格（製造業・卸売業・小売業のみ）

— 当期・来期ともに「上昇」超幅がほぼ横這い —

(1) [2017年7～9月期実績]

当期の販売価格D. I. は 22.0 と、「上昇」超幅がほぼ横這いとなった。

業種別にみると、小売業で「上昇」超幅がやや縮小したものの、製造業、卸売業で「上昇」超幅がやや拡大した。

(2) [2017年10～12月期見通し]

来期の販売価格D. I. は 20.7 と、「上昇」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

業種別にみると、卸売業、小売業で「上昇」超幅がやや縮小するものの、製造業で「上昇」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

表2. 販売価格D.I.

参考:販売価格D. I. (前年同期比、「上昇」-「下降」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2016年			2017年				
		4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期		10～12月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全業種	D. I. (①—②)	10.5	4.2	12.5	16.1	20.7	(23.3)	22.0	20.7
	① 上昇(%)	24.2	19.4	22.4	22.8	26.7	(28.0)	27.3	25.3
	不変(%)	62.1	65.3	67.8	70.5	67.3	(67.3)	67.3	70.0
	② 下降(%)	13.7	15.3	9.9	6.7	6.0	(4.7)	5.3	4.7
	製造業	1.5	3.1	9.4	11.3	12.9	(27.4)	15.9	17.5
	卸売業	16.7	0.0	21.4	22.5	30.0	(30.0)	34.1	31.7
	小売業	17.4	9.8	8.7	17.0	22.9	(12.5)	19.6	15.2

参考3. 在庫水準（製造業・卸売業・小売業のみ）

— 「過剰」超幅がやや縮小 —

〔2017年9月期末〕

在庫水準D. I. は△1.3と、前期末と比べて「過剰」超幅がやや縮小した。

業種別に見ると、小売業で「過剰」超幅がやや拡大、卸売業で引き続き「保合い」となったものの、製造業で「過剰」超から「不足」超に転じた。

表3. 在庫水準D.I.

参考:在庫水準D. I. (各期末の水準、「不足」-「過剰」企業割合)

(単位: %ポイント)

業種	区分	2016年			2017年		
		6月期末	9月期末	12月期末	3月期末	6月期末	9月期末
全業種	D. I (①-②)	△ 12.4	△ 6.9	△ 5.3	△ 7.4	△ 5.3	△ 1.3
	① 不足(%)	0.7	2.8	3.3	1.3	0.0	3.3
	適正(%)	86.3	87.5	88.2	89.9	94.7	92.0
	② 過剰(%)	13.1	9.7	8.6	8.7	5.3	4.7
	製造業	△ 10.8	△ 3.1	△ 7.8	△ 6.5	△ 9.7	1.6
	卸売業	△ 7.1	△ 15.4	△ 4.8	△ 7.5	0.0	0.0
	小売業	△ 19.6	△ 4.9	△ 2.2	△ 8.5	△ 4.2	△ 6.5

参考 4. 雇用判断

— 当期・来期ともに「不足」超幅が拡大し、過去最高水準 —

(1) [2017年7～9月期実績]

当期の雇用判断D. I. は50.7と、「不足」超幅が拡大した。

業種別にみると、情報通信業で「不足」超幅が横這い、小売業で「不足」超幅がほぼ横這いとなるものの、建設業、運輸業、飲食店・宿泊業で「不足」超幅が大幅に拡大し、卸売業、サービス業で「不足」超幅が拡大、製造業で「不足」超幅がやや拡大した。

(2) [2017年10～12月期見通し]

来期の雇用判断D. I. は55.8と、「不足」超幅が拡大する見通しとなっている。

業種別にみると、飲食店・宿泊業で「不足」超幅がやや縮小し、情報通信業、サービス業で「不足」超幅が横這いとなるものの、小売業、運輸業で「不足」超幅が大幅に拡大し、製造業、建設業で「不足」超幅が拡大、卸売業で「不足」超幅がやや拡大する見通しとなっている。

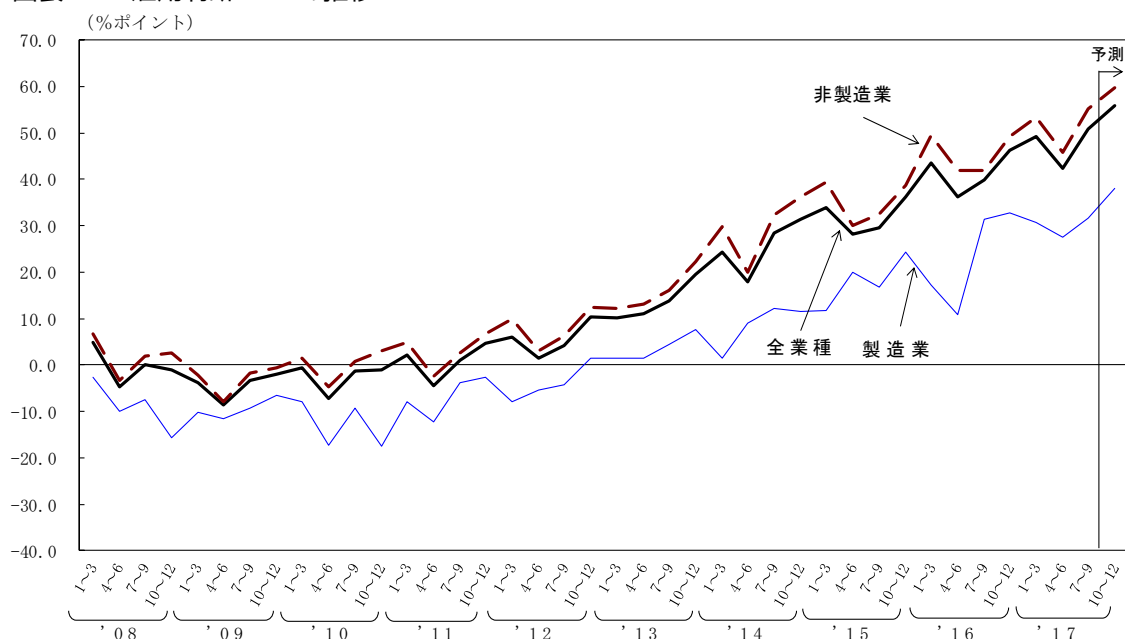
図表4-1. 雇用判断D.I.

参考：雇用判断D. I. (当該期、「不足」-「過剰」企業割合)

(単位：%ポイント)

業種	区分	2016年			2017年				
		4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	7～9月期		10～12月期	
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全業種	D. I. (①-②)	36.1	39.9	46.3	49.3	42.4	(43.3)	50.7	55.8
	① 不足(%)	41.8	44.3	48.9	50.7	44.5	(45.7)	52.5	56.3
	適正(%)	52.4	51.3	48.6	47.8	53.4	(51.9)	45.7	43.1
	② 過剰(%)	5.7	4.4	2.6	1.4	2.1	(2.4)	1.8	0.6
製造業		10.8	31.3	32.8	30.6	27.4	(27.4)	31.7	38.1
建設業		34.8	33.8	49.2	61.2	36.9	(41.5)	52.3	58.5
卸売業		21.4	17.9	31.0	35.0	27.5	(30.0)	36.6	41.5
小売業		43.5	41.5	52.2	46.8	58.3	(54.2)	58.7	69.6
運輸業		50.0	47.1	47.1	52.9	51.5	(51.5)	62.5	75.0
情報通信業		22.2	21.1	25.0	25.0	5.6	(5.6)	5.6	5.6
サービス業		49.0	60.0	64.0	69.4	64.6	(64.6)	71.7	71.7
飲食店・宿泊業		84.0	70.4	69.6	70.8	68.4	(78.9)	87.5	83.3

図表4-2. 雇用判断D. I. の推移



参考 5. 経営上の問題点

— 11 期連続で「求人難」が最多となる —

〔2017 年 7～9 月期実績〕

当面の経営上の問題点としては、11 期連続で「求人難」(26.3%) が最も多くなった。続いて、「設備・店舗の狭小・老朽化」(13.4%)、「人件費の増加」(13.4%)、「原材料高」(11.3%) となった。

業種別にみると、製造業では、他の業種と比べ「原材料高」、「設備・店舗の狭小・老朽化」を問題点とする割合が高い。

建設業では、他の業種と比べ「売上の不振」、「原材料高」を問題点とする割合が高い。

卸売業では、他の業種と比べ「製品安等」、「原材料高」を問題点とする割合が高い。

小売業では、他の業種と比べ「人件費の増加」、「設備・店舗の狭小・老朽化」を問題点とする割合が高い。

運輸業では、他の業種と比べ「求人難」、「設備・店舗の狭小・老朽化」を問題点とする割合が高い。

情報通信業では、他の業種と比べ「売上の不振」、「利益の減少」を問題点とする割合が高い。

サービス業では、他の業種と比べ「人件費の増加」、「求人難」を問題点とする割合が高い。

飲食店・宿泊業では、他の業種と比べ「人件費の増加」、「求人難」を問題点とする割合が高い。

図表5-1. 経営上の問題点(複数回答)

(単位：%)

業種	区分	売上の不振	製品安等	利益の減少	原材料高	人件費の増加	人件費以外経費の増加	代金回収難	借入難	余剰人員	求人難	設備・店舗の狭小等	事業承継	その他
全業種		10.3	3.0	9.9	11.3	13.4	8.0	0.6	0.4	0.0	26.3	13.4	1.8	1.7
製造業		12.2	3.2	10.9	14.7	11.5	9.6	0.6	0.0	0.0	15.4	19.9	1.3	0.6
建設業		15.4	1.3	11.4	14.8	10.1	7.4	0.7	1.3	0.0	26.2	6.7	2.0	2.7
卸売業		7.6	9.8	8.7	13.0	9.8	7.6	1.1	0.0	0.0	29.3	13.0	0.0	0.0
小売業		10.4	0.9	7.5	5.7	17.9	7.5	1.9	0.0	0.0	29.2	14.2	1.9	2.8
運輸業		6.6	1.3	9.2	9.2	10.5	7.9	0.0	1.3	0.0	30.3	18.4	3.9	1.3
情報通信業		23.5	5.9	23.5	2.9	14.7	2.9	0.0	0.0	0.0	11.8	11.8	2.9	0.0
サービス業		6.1	3.0	9.1	5.1	19.2	9.1	0.0	0.0	0.0	36.4	10.1	1.0	1.0
飲食店・宿泊業		1.7	0.0	3.4	17.2	17.2	5.2	0.0	0.0	0.0	34.5	13.8	3.4	3.4

図表5-2. 経営上の問題点(複数回答)

